

陸海一体の物流網構築へ

渡会氏 東三河のインフラ整備ただす

県議会代表質問

2月定例県議会は4日、本会議を再開。代表質問が行われ、伊藤勝人(自民党・春日井市)▽高橋正子(新政あいち・一宮市及び葉栗郡)▽渡会克明(公明党・豊橋市)の3氏が登壇した。

(木村裕貴)



渡会克明氏

このうち渡会氏は、東三河地域のインフラ整備やAIを活用できる人材の育成などを取り上げ、県の見解をただし

た。

大村秀章知事は、東三河地域のインフラ整備について「三遠南信自動車道整備や神野西地区ふ頭用地の岸壁工事など、陸海一体の効率的な物流ネットワークの構築を目指す」と答弁した。

また、平松直巳教育長は、STREAM(科学・技術・ロボット・工学・芸術・数学)教育を取り入れた豊橋工業高校を成功モデルとして挙げ、「他の高校でも大学・企業と連携してAIを活用できる人材育成を行っていく」と答えた。

豊橋工業高校は、名古屋芸術大学と連携し、利便性の高いデザインのロボットを開発するプロジェクトなど実施、2020年度にはロボット工学科を新設する。AIやIoTを活用できる次世代の技術者育成を目指している。

2月定例県議会は、5日から一般質問が行われる。